

平成 26 年 5 月 26 日

県立高等学校教育の在り方検討委員会 様

岩手県教育委員会  
教育長 高橋 嘉行

下記の事項について、別紙理由書を添えて、諮問します。

記

諮問事項

今後の県立高等学校教育の在り方について  
（「今後の高等学校教育の基本的方向」の見直し）

## 理 由 書

岩手県教育委員会では、平成 12 年度に「県立高等学校新整備計画」を策定し、生徒急減期に対応した県立高等学校の再編整備に取り組み、さらに平成 22 年度には「今後の高等学校の基本的方向」を策定し、新たな再編整備に向けた計画策定の作業を進めてきましたが、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波による甚大な被害及びその影響を考慮し、策定を延期してきたところです。

近年、我が国では、インターネット社会の進展、高度情報化、グローバル化等、広範で急速な社会変化が進行していることに加え、国による教育制度の見直しや、少子化の更なる進行等、教育を取り巻く環境は大きく変容しています。

さらに、東日本大震災津波の発生により、心理的な影響を受けた児童生徒も多く、そうした児童生徒への心のサポートが必要な状況にあります。

このような中で、岩手の子どもたちの確かな成長を支え、より良い社会を形成し得る有為な人材、復興に寄与する人材を育成する取組を再構築することが求められており、併せて、生徒の興味関心や、適性等に応じて教育を受ける機会を保証することも重要です。

こうした状況を踏まえ、生徒減少と学校の小規模化が進む中であって、今よりもさらに教育の質を高め、魅力ある高校を作っていく等、高校教育としての学びの環境がどうあるべきか、あらためて検討する必要があります。

### ○ 検討に当たっての主な観点

- (1) 岩手の教育の基本的な考え方について
- (2) 県立高校配置のグランドデザインについて
- (3) 東日本大震災からの復興に向けた人財育成について